

中ザワヒデキ音楽作品集

1997年以降の方法音楽 + 1996年以前のバカCGアニメ音響

さ	さ	さ	さ	さ	さ	し	そ
さ	さ	さ	さ	さ	さ	し	そ
と	と	と	と	と	と	し	そ
れ	れ	れ	れ	れ	れ	ら	ら
れ	れ	れ	れ	れ	れ	ら	ら
り	り	り	り	り	り	り	り
り	り	り	り	り	り	り	り
り	り	り	り	り	り	り	り
り	り	り	り	り	り	り	り

NAKAZAWA HIDEKI Music Works

The Method Music Since 1997 + Sounds for 'Silly CG' Animations Before 1996

中ザワヒデキ [1963-]

1997年以降の方法音楽

- 01 三声の五十音インヴェンション 第一曲 (0:31) 02第二曲 (0:43) [2002]
 03 126個の上行音型から成る楽曲第一番 (2:14) [2002]
 04 126個の下行音型から成る楽曲第二番 (2:11) [2002]
 05 144個の回文音型から成る楽曲第三番 (3:58) [2002]
 06 二声の五十音インヴェンション 第一曲 (0:35) 07第二曲 (0:29) 08第三曲 (0:33) [1997]
 09 1から256まで (6:29) [2003-2006]
 10 五十音モノフォニー 第一曲 (2:44) [1999] 11第二曲 (1:50) [2000] 12第三曲 (0:27) 13第四曲 (0:28) [2002]
 14 五部から成る十三絃箏のためのアフター・ハノン 第一曲 (3:46) 15第二曲 (3:52) 16第三曲 (3:52) [2002]
 17 二声の五十音カノン 第一曲 (0:19) 18第二曲 (0:19) 19第三曲 (0:19) 20第四曲 (0:19) [1997]
 21 歌曲「順序」(松井茂作詞) 第一番 (2:06) 22第二番 (2:06) [2006]
 23 三声の五十音カノン 第一曲 (0:21) 24第二曲 (0:15) 25第三曲 (0:23) 26第四曲 (0:15) 27第五曲 (0:51) [1997-1999]
 28 768個の装飾音符付楽音のある単旋律 (4:24) [1998] (ライブ録音)
 29 数字詩 (一または四話者のための十進数字朗読詩) 第一番 (0:28) 30第二番 (0:28) 31第三番 (0:28) 32第四番 (0:27) 33第五番 (0:28) [1999] (ポルトガル語による)

01-02, 06-08, 10-13, 23-27 2006年7月7日、9月5日録音
 03-05, 09, 14-16, 21-22 GOK SOUNDにて2006年7月25日録音、8月1日ミックス
 28 2002年4月16日カザルスホールにてライブ録音
 29-33 2000年8月録音 34-49 2006年9月5日録音

1996年以前のバカCGアニメ音響

- 34 抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に1」(0:47) [1994]
 35 抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に2」(2:44) [1994]
 36 抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に3 "しりとろ編"」(1:10) [1995]
 37 抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に4 "形式編"」(1:44) [1995]
 38 CLICK STUDY 001.くりっくフェール (0:45) [1995]
 39 CLICK STUDY 002.くりっく音ナルー (0:29) [1995]
 40 CLICK STUDY 003.跳び蹴り第5番 (1:23) [1995]
 41 CLICK STUDY 004.とりせつ-01 : 終了するには (0:16) [1995]
 42 CLICK STUDY 005.顔バレー第1番 (1:34) [1995]
 43 CLICK STUDY 006.いちいちくりっくさせるか! (0:51) [1995]
 44 CLICK STUDY 007.山越えて一等右に乳首かな (0:24) [1995]
 45 CLICK STUDY 008.母をたずねて30000ドット (0:37) [1995]
 46 CLICK STUDY 009.跳び蹴り第6番 (1:25) [1995]
 47 えざらざら (1:04) [1995]
 48 出現絵画 (2:03) [1995]
 49 不可視関数試論 (カンタン・アブストラクト) (4:22) [1996]

曾我部清典 (トランペット) 03-05

西陽子 (十三絃箏) 14-16

足立智美 (声) 06-08, 11, 13, 17-20, 21-22

さかいいいしう (声) 06-08, 10, 12, 17-20

鈴木悦久 (マリンバ) 09, 21-22 (声) 01-02, 23-27

池田拓実 (声) 01-02, 23-27

安野太郎 (声) 01-02, 23-27

高橋悠治 (ピアノ) 28

足立智美ロイヤル合唱団 (声) 29-33

中ザワヒデキ (マウス) 34-49

「方法」の悪意

高橋悠治

中ザワヒデキはアーティストでありつづける
ほとんどジャーナリスティックな感覚で 時代のすすむ方向の半歩先を歩もうとする

方法主義を思いついたのも 20世紀前半のモンドリアンやヴェーベルンのようにヨーロッパ中華思想の極限としての前衛啓蒙主義とはまったくちがう理由だったにちがいない
それについて本人がどのように語ろうと それはすべて自己欺瞞さえ含む韜晦ではないのだろうか

方法主義をかかげながら 方法を信じたり 発見の道具として使ったり あるいは表層デザインとして商品化する といった他のアーティストとちがう冷めた目がはたらいている

方法は「方法」であり キャッチあるいは撒き餌であり いくらかアナクロになったこのことばを投げ入れることによって 前衛芸術の最盛期と思われている時期に遅れて生まれてきた人々の不在への郷愁をかきたて そこから無意味な論争や空疎な宣言を生みながら 擬似芸術運動が展開する という人間の右往左往が じつは中ザワの方法芸術作品だった ということはないだろうか

釣り竿惜しさから 水中にひきずりこまれる釣り人の愚かさもちあわせていない 攪乱の成果をたしかめるとさっさと足を洗い 次の実験にとりかかる あとには 反復マシンとなった一群が取り残されるが アーティストとは冷酷なものだ 他人の思想を偽造し 友人も自己も裏切る その永久運動の跡にはかすかな笑いの渦が しばらく漂っている

(たかはし ゆうじ 作曲家/ピアニスト)

制作者注：

「方法主義」とは、2000年1月1日に発表された宣言「方法絵画、方法詩、方法音楽（方法主義宣言）」によって措定された、一種の芸術上の還元主義である。美術家の中ザワヒデキがこの宣言を起草し、詩人の松井茂と音楽家の足立智美が起草立会をおこなった。三名によってEメール機関誌「方法」が刊行され、2002年1月1日からは足立に代わって作曲家の三輪真弘がグループに参画した。機関誌発行のほかに第二、第三の宣言や「方法芸術祭」の実施、演奏集団「方法マシン」の設立等がおこなわれた。2004年12月31日、中ザワの決断によりグループとしての活動を満五年間で終了。
本CDは、上記経緯をもつ美術家の音楽作品集として制作されている。

方法絵画、方法詩、方法音楽（方法主義宣言）

二十世紀の諸学諸芸に民主主義体制の結果として林立した同語反復は、形式ではなく方法への還元によって、再び単一原理として語られ始めなければならない。同語反復が意味する無意味は感覚主義や衆愚の口実とはならず、むしろその権威化には禁欲と戒律が要請される。

方法絵画は、偶然と即興を禁じて方法自体に重ね合わされた色彩平面である。ただし、快楽に直結する実際の色彩は、周到に他の物質に置換されることもある。

方法詩は、私情と没入を禁じて方法自体と化した文字列である。ただし、抒情を叙事する実際の文字は、周到に他の記号に代替されることもある。

方法音楽は、表情と速度を禁じて方法自体が具現した振動時間である。ただし、愛欲を加減する実際の振動は、周到に他の事象で代用されることもある。

これらの方法芸術は、一方ではそれぞれの形式が依拠する伝統に回帰しつつ、他方では単一原理を同時代的に唱和する。われわれ方法主義者は、放縦と怠惰を学芸にもたらした自由と平等を懐疑し、倫理としての論理を復権する。

補遺一 篠原資明は、十年ほど前から自作を方法詩と呼んでいる。氏の活動に敬意を表しつつ、同語を拡大・再解釈して用いる。

補遺二 本宣言に対する賛同者は、「賛同 氏名（肩書）」と末尾に書き加えた上で、自己の責任によって、知人に転送して構わない。部分的賛同者、非賛同者も同様である。もちろん、氏名を追加せずに転送したければ、それでもよい。

西暦二千年（平成十二年）一月一日

起草 中ザワヒデキ（美術家）

起草立会 松井 茂（詩人）

起草立会 足立智美（音楽家）

音の作品について

中ザワヒデキ

音を使用した私の芸術活動は、以下の4種に大別される。「方法音楽」と自称しているものは(1)と(2)であり、(3)は「方法芸術」関連の活動、(4)は「パカCG」アニメーションの音響である。本稿では、CDに収録されない作品については割愛し、また、解説順は収録順とは異なる。

- (1) 五十音を用いた方法音楽作品 1997- 01-02, 06-08, 10-13, 17-20, 23-27
 (2) 楽音を用いた方法音楽作品 1998- 03-05, 09, 14-16, 21-22, 28
 (3) 方法芸術作品の朗読 1999- 29-33
 (4) パカCG・アニメーションの音響 1994-1996 34-49

- (1) 五十音を用いた方法音楽作品 1997-

対位法による作曲を日本語の五十音でおこなった音楽作品群で、文字は音符として扱われている。一般的には文字は文学の素材だが、その視覚面を取って絵画の素材とし、絵画の方法で制作したものが、私の「方法絵画」(の一部)である。同様に、文字の聴覚面を取って音楽の素材とし、音楽の方法で制作したものが、私の「方法音楽」(の一部)である。音楽の方法として対位法を採用したので、ポリフォニーとモノフォニーがある。

二声の五十音インヴェンション第一曲、第二曲、第三曲 [1997]
 シリーズ最初の作品で、五十音図を意識しているものの、音列の選び方には恣意性が残存し、濁音、半濁音、撥音も使用されている。作曲: 1997年2月11日。初演: 同年6月4日、西早稲田ギャラリーNWハウス(中ザワヒデキ展会場)。初演者: 一ノ瀬響、一ノ瀬トニカ。

二声の五十音カノン第一曲、第二曲、第三曲、第四曲 [1997]
 シリーズ二番目の作品で、五十音図から厳格に音列を選び取り、十二音技法を適用したセリー作品。作曲: 1997年5月19日。初演: 同年6月4日、西早稲田ギャラリーNWハウス(中ザワヒデキ展会場)。初演者: 一ノ瀬響、一ノ瀬トニカ。

三声の五十音インヴェンション第一曲、第二曲 [2002]
 作曲: 2002年11月19日。初演: 同月23日、下北沢ARTIST。初演者: 赤梨泰子(テレコを用いたリアルタイム一人多重録音ライブ)。備考: 三名三声による初演は、2006年7月23日、渋谷アップリンクファクトリー(中ザワヒデキ音楽作品展)にて、池田拓実、鈴木悦久、安野太郎がおこなった。

三声の五十音カノン第一曲、第二曲、第三曲、第四曲、第五曲 [1997-1999]

委嘱者: 足立智美ロイヤル合唱団。作曲: 1997年8月10日。初演: 同年10月4日、法政大学学館大ホール。初演者: 足立智美ロイヤル合唱団。備考: 1999年4月21日に改訂され、同年5月22日、三鷹市芸術文化センター(音楽工作所)にて、足立智美ロイヤル合唱団が改訂譜を初演した。

五十音モノフォニー第一曲 [1999]、第二曲 [2000]、第三曲 [2002]、第四曲 [2002]
 ポリフォニーと違い、モノフォニーは結果的に詩と同じスタイルである。そのため作曲の着手は後回しとなった。第一曲と第二曲では、五十音すべてを重複無く並べて基本音列とした。第一曲の音列は五十音図上では一筆書きで示される。第一曲は、委嘱者: 桜井真樹子。作曲: 1999年6月14日。初演: 同月20日、千駄木ばおばふ。初演者: 桜井真樹子。第二曲は、作曲: 2000年6月2日。初演: 同年9月15日、名古屋港ガーデンふ頭20号倉庫。初演者: さかいれいしう。第三、四曲は、作曲: 2002年7月31日。初演: 同年8月1日、北海道立函館美術館。初演者: 中ザワヒデキ。

- (2) 楽音を用いた方法音楽作品 1998-

一定のアルゴリズムから得られた数列を、楽器による楽音で表した音楽作品群。「方法主義」においては、アルゴリズムは、美術、文学、音楽より上位に置かれる。したがって、同一のアルゴリズムを美術の方法として用いれば美術作品となり、音楽の方法として用いれば音楽作品となる。

768個の裝飾音符付楽音のある単旋律 [1998]
 線分の両端のあいだに一定個数の点を打ち、それらを変曲点として線分を曲げて曲線を作る。次に、変曲点と変曲点のあいだに一定個数の点を打ち、曲線をさらに折り曲げて、より複雑な曲線を作る。1997年、この操作をフラクタル的に繰り返し、美術作品『768個の変曲点のある単一曲線』を制作した。翌年、この操作を線分に対してではなく、単旋律に対して適用し、本音楽作品を制作した。楽器指定無し。作曲: 1998年11月9-14日。初演: 1999年5月22日、三鷹市芸術文化センター(音楽工作所)。初演者: 宮木朝子(ピアノ)。備考: 横一列に細長く出力した本作の楽譜は、1998年11月16日-12月12日、大阪サイギャラリーで美術作品として発表された。本CDは2002年4月16日にカザルスホールでおこなわれた「高橋悠治ソロコンサート」のライブ録音。

126個の上行音型から成る楽曲第一番 [2002]
 1オクターヴの全音音階内に存在する上行音型を全て書き出し、重複無く並べた単旋律楽曲。同様のアルゴリズムは美術作品『511個の自然数から成る集合第一番』にも採用されている。楽器指定無し。作曲: 2002年3月23日。初演: 同年4月27日、吉祥寺WINDS CAFE。初演者: 曾我部清典(トランペット)。備考: MIDIによる初演は同年3月24日、京都芸術センターで中ザワヒデキがおこなった。

126個の下行音型から成る楽曲第二番 [2002]
 1オクターヴの全音音階内に存在する下行音型を全て書き出し、重複無く並べた単旋律楽曲。同様のアルゴリズムは美術作品『1022個の自然数から成る集合第二番』にも採用されている。楽器指定無し。作曲: 2002年3

月23日。初演：2003年10月11日、吉祥寺WINDS CAFE。初演者：石渡玲玲（トイ・ピアノ）。備考1：同時演奏での初演は、2002年4月28日、阿佐ヶ谷ギャラリー倉庫（第二回方法芸術祭）にて、さかいれいしう（ピアノ）と鶴見幸代（ピアノ）が『126個の上行音型から成る楽曲第一番』と本作を演奏した。備考2：MIDIによる初演は2002年3月24日、京都芸術センターで中ザワヒデキがおこなった。

144個の回文音型から成る楽曲第三番 [2002]

1オクターヴの全音階内に存在する山形または谷形の回文音型を全て書き出し、重複無く並べた単旋律楽曲。同様のアルゴリズムは美術作品『180個の回文数から成る集合第三番』にも採用されている。楽器指定無し。作曲：2002年3月23日。初演：同年4月27日、吉祥寺WINDS CAFE。初演者：曾我部清典（トランペット）。備考：MIDIによる初演は同年3月24日、京都芸術センターで中ザワヒデキがおこなった。

五部から成る十三絃等のためのアフター・ハノン第一曲、第二曲、第三曲 [2002]

ピアノのためのハノンは練習曲だが、本作は観賞曲として作曲されている。アルゴリズムを音高に対してではなく、楽器の特性に対して適用した作品。作曲：2002年9月4日。初演：同月14日、吉祥寺WINDS CAFE。初演者：日原史絵（十三絃箏）。

1から256まで [2003-2006]

1番から256番までの小節番号を因数分解して音高に適用した作品。それぞれの音高には素数が低音から小さい順に割り当てられている。2の音高と3の音高の和音は6を表す。2の音高が8回連打されると256である。楽器指定無し。作曲：2003年4月9-13日。改訂：2006年5月24日。初演：2006年7月23日、渋谷アップリンクファクトリー（中ザワヒデキ音楽作品展）。初演者：鈴木悦久（マリンバ）。備考：改訂前の譜のMIDIによる録音が2003年6月15日にATAKからリリースされたCDに収録されている（60 Sound Artists Protest The War）。

歌曲「順序」（松井茂作詞）第一番、第二番、第三番、第四番、第五番、第六番 [2006]

数字と改行だけでできている松井茂の詩を、そのまま楽譜とみなして歌曲とした。指定音高の異なる通常版と箏版があり、前者は鍵盤楽器と声、後者は箏と声により演奏される。音階的ではない発音と音階的な楽音は、原理的にはリスナーの脳内で、一個の音階的な発音へと組み立て可能なはずである。委嘱：PreAva。作曲：2006年6月7日-7月11日。第一、二、三、四番は、初演：同年6月14日、トーキョーワンダーサイト。初演者：PreAva。第五、六番は、初演：同年7月15日、青森国際芸術センター。初演者：松井茂（キーボード）、中ザワヒデキ（声）。本CDは通常版による第一、二番を収録。

(3) 方法芸術作品の朗読 1999-

「方法絵画」や「方法詩」の中には、音が予め想定されて作られたものがある。

「方法芸術」においては、素材は必ずしもジャンルを規定しない。たとえば色光を素材とした1997年作の『二声の色光ポリフォニー』は、音の出ない音楽作品である。反対に、音楽と称されていないのに音の出る芸

術として、文字を素材とした「方法絵画」（の一部）や「方法詩」の朗読が挙げられる。

私は、『903個の回文的造語から成る文章第一番』等、方法絵画作品の朗読を数多くおこなったが、本CDに収録されるのは詩作品の朗読である。

数字詩（一または四話者のための十進数字朗読詩）第一番、第二番、第三番、第四番、第五番 [1999]

アラビア数字を連ねた四行詩。言語指定無し。作詩：1999年3月3-16日。初演：1999年5月22日、三鷹市芸術文化センター（音楽工作所）。初演者：足立智美ロイヤル合唱団。本CDはポルトガル語による朗読で、四話者がひとりずつ各行を読むのではなく、ユニゾンで発声している。

(4) バカCG・アニメーションの音響 1994-1996

1990年から私は「バカCG」のイラストレーターとして活動を開始し、インタラクティブなクリック・アニメーションを数多く制作した。1994年からは、サウンドエディットというソフトで自作した音響ばかりを用いるようになった。その音響は音楽作品として独立して作られたわけではなく、鑑賞者のマウス操作に左右される、あくまでマルチメディア作品の一部であった。

抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に1」 [1994] …初出：CD-ROMマガジン [INTRO] No. 1

抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に2」 [1994] …初出：CD-ROMマガジン [INTRO] No. 2

抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に3 "しりとり編"」 [1995] …初出：CD-ROMマガジン [INTRO] No. 3

抽象自動書記アニメ「飛び蹴りの彼方に4 "形式編"」 [1995] …初出：CD-ROMマガジン [INTRO] No. 4

CLICK STUDY 001.くりっくフェール [1995] …「CLICK STUDY」シリーズは、CD-ROM作品集制作の依頼を受け作り始めたものの、計画が頓挫し、当時未発表。2006年7月23日、渋谷アップリンクファクトリー（中ザワヒデキ音楽作品展）で、中ザワ自身がマウス操作をおこなうライブの形式で初披露した。

CLICK STUDY 002.くりっく音ナール [1995]

CLICK STUDY 003.跳び蹴り第5番 [1995]

CLICK STUDY 004.とりせつ-01：終了するには [1995]

CLICK STUDY 005.顔パレー第1番 [1995]

CLICK STUDY 006.いちいちくりっくさせるか！ [1995]

CLICK STUDY 007.山越えて一右等に乳首かな [1995]

CLICK STUDY 008.母をたずねて30000ドット [1995]

CLICK STUDY 009.跳び蹴り第6番 [1995]

えずらずら [1995] …発表：NiCAF95

出現絵画 [1995] …初出：CD-ROMマガジン [INTRO] No. 6

不可視関数試論（カンタン・アブストラクト） [1996] …手前の液晶パネルにある言葉のボタンに触れると音が鳴り、奥のモニタ画面に抽象絵画が生成される装置。1996年から2003年までNADIA PARK（名古屋市青少年センター）に設置され、2003年以降、蒲郡市生命の海科学館に設置されている。

Nakazawa Hideki [1963-]

The Method Music Since 1997

- 01 Japanese Syllabic Invention in Three Voices No. 1 (0:31) 02 No. 2 (0:43) [2002]
 03 Musical Composition No. 1 Which Consists of 126 Ascending Figures (2:14) [2002]
 04 Musical Composition No. 2 which Consists of 126 Descending Figures (2:11) [2002]
 05 Musical Composition No. 3 Which Consists of 144 Palindromic Figures (3:58) [2002]
 06 Japanese Syllabic Invention in Two Voices No. 1 (0:35) 07 No. 2 (0:29) 08 No. 3 (0:33) [1997]
 09 From 1 to 256 (6:29) [2003-2006]
 10 Japanese Syllabic Monophony No. 1 (2:44) [1999] 11 No. 2 (1:50) [2000] 12 No. 3 (0:27)
 13 No. 4 (0:28) [2002]
 14 After Hanon for Thirteen-String-Koto in Five Parts No. 1 (3:46) 15 No. 2 (3:52) 16 No. 3
 (3:52) [2002]
 17 Japanese Syllabic Canon in Two Voices No. 1 (0:19) 18 No. 2 (0:19) 19 No. 3 (0:19)
 20 No. 4 (0:19) [1997]
 21 Song "Order" (Words by Matsui Shigeru) No. 1 (2:06) 22 No. 2 (2:06) [2006]
 23 Japanese Syllabic Canon in Three Voices No. 1 (0:21) 24 No. 2 (0:15) 25 No. 3 (0:23)
 26 No. 4 (0:15) 27 No. 5 (0:51) [1997-1999]
 28 Monophony With 768 Musical Tones Each Accompanied by A Grace Note (4:24) [1998]
 (live recording)
 29 Numeral Poetry (Decimal Numeral Reciting Poetry for One Or Four Readers) No. 1 (0:28)
 30 No. 2 (0:28) 31 No. 3 (0:28) 32 No. 4 (0:27) 33 No. 5 (0:28) [1999] (in Portugues)

01-02, 06-08, 10-13, 23-27 recordrd on July 7 and September 5, 2006
 03-05, 09, 14-16, 21-22 recordrd on July 25 and mixed on August 1, 2006 at GOK SOUND
 28 live recordrd on April 16, 2002 at Casals Hall
 29-33 recordrd in August 2000 34-49 recordrd on September 5, 2006

Sounds for 'Silly CG' Animations Before 1996

- 34 Abstract Automatic Animation "Beyond the Tobigeri 1" (0:47) [1994]
 35 Abstract Automatic Animation "Beyond the Tobigeri 2" (2:44) [1994]
 36 Abstract Automatic Animation "Beyond the Tobigeri 3 'Shiritori'" (1:10) [1995]
 37 Abstract Automatic Animation "Beyond the Tobigeri 4 'Form'" (1:44) [1995]
 38 CLICK STUDY 001. Click Multiplying (0:45) [1995]
 39 CLICK STUDY 002. Click Sounding (0:29) [1995]
 40 CLICK STUDY 003. Tobigeri #5 (1:23) [1995]
 41 CLICK STUDY 004. Instruction-01: How to Quit (0:16) [1995]
 42 CLICK STUDY 005. Face Ballet #1 (1:34) [1995]
 43 CLICK STUDY 006. Have to Click It Each? (0:51) [1995]
 44 CLICK STUDY 007. Go Beyond the Hills, A Nipple at the Right (0:24) [1995]
 45 CLICK STUDY 008. Seeing Mother for 30000 Pixels (0:37) [1995]
 46 CLICK STUDY 009. Tobigeri #6 (1:25) [1995]
 47 E Zura Zura (1:04) [1995]
 48 Appearing Painting (2:03) [1995]
 49 Essay on Invisible Functions (Easy Abstraction) (4:22) [1996]

Sokabe Kiyonori (trumpet) 03-05
 Nishi Yoko (thirteen-string-koto) 14-16
 Adachi Tomomi (voice) 06-08, 11, 13, 17-20, 21-22
 Sakai Reisiu (voice) 06-08, 10, 12, 17-20
 Suzuki Yoshihisa (marimba) 09, 21-22 (voice) 01-02, 23-27
 Ikeda Takmi (voice) 01-02, 23-27
 Yasuno Taro (voice) 01-02, 23-27
 Takahashi Yuji (piano) 28
 Adachi Tomomi Royal Chorus (voice) 29-33
 Nakazawa Hideki (mouse) 34-49

About My Sound Works (Digest)

Nakazawa Hideki

My artistic activity using sound can be classified into four groups. What I call "Method Music" are (1) and (2), (3) is the activity related to "Method Art," and (4) is the sounds for "Silly CG" animations.

(1) "Method Music" using Japanese syllabary 1997- 01-02, 06-08, 10-13, 17-20, 23-27

These are music works in which Japanese syllabary was used by way of counterpoint composition, and the characters were treated as musical notes.

Characters are generally materials used in literature. However, parts of my "Method Painting" attempt to use the visual aspect of the characters as a material for painting. Similarly, parts of my "Method Music" attempt to use the auditory aspects of the characters as a material for music. Polyphony and monophony are used because counterpoint was adopted as a method for music composition.

(2) "Method Music" using musical tones 1998- 03-05, 09, 14-16, 21-22, 28

Music works in which instrumental musical tones express progressions based on a given algorithm.

In "Methodicism," algorithm is superior to visual art, literature and music. Therefore, the same algorithm can create visual art works if it is used as a method of visual art, and music works if it is used as a method of music.

(3) Recitation of "Method Art" works 1999- 29-33

There are some "Method Painting" and "Method Poem" which have been created with sound in mind.

In "Method Art," the material does not necessarily tell its genre. For example, "Colored-Light Polyphony in Two Voices," which was created in 1997, uses colored light as a material and is a music work without sound. On the contrary, there is a recitation of some of the Method Painting and Method Poem in which characters are used as materials with sounds although they are not called music.

I have recited works of Method Painting such as "Sentence No. 1 Which Consists of 903 Palindromic Coined Words" and others many times before, but this CD contains the reading of my poetry works.

(4) Sounds for "Silly CG" animation 1994-1996 34-49

I started to work as a "Silly CG" illustrator from 1990 and made a lot of interactive click-animations. From 1994 I began to use only sounds I created with the software called SoundEdit. The sounds were never created as independent music works, but part of the multimedia works which were to be controlled by the users' mouse operations.

Note:

"Methodicism" is a type of reductionism in art, which was set in the manifesto called "Method Painting, Method Poem, Method Music (Methodicist Manifesto)," published on January 1, 2000. The visual artist Nakazawa Hideki drafted this manifesto, and the poet Matsui Shigeru and the musician Adachi Tomomi observed the drafting. The three artists began to publish an email-bulletin called "Method," and the composer Miwa Masahiro joined the group on January 1, 2002, taking over the place of Adachi. Besides the bulletin, the group published the second and third manifestos, organized "The Method Art Festivals," and founded the performance group "The Method Machine." The activities of the group, which lasted for five years, were concluded by Nakazawa's decision on December 31, 2004.

This CD was produced as a collection of music works by a visual artist with the above-mentioned career history.

(English supervised by Oribe Harutaka)

Method Painting, Method Poem, Method Music (Methodicist Manifesto)

A large number of tautologies seen in every art and every science of the twentieth century, which democratic systems have given rise to, should now be talked about again as a single principle, by being reduced to method, not to form.

Meaninglessness, which is what tautologies mean, does not excuse sensualism nor the mob, and it rather requests stoicism and discipline for its authorization.

Method painting is a colored plane which is overlaid on method itself, prohibiting chance and improvisation. However, real colors which cause pleasure will sometimes be replaced scrupulously with other materials.

Method poem is a row of letters which comes to method itself, prohibiting personalization and absorption. However, real letters which epinize lyric will sometimes be alternated scrupulously with other signs.

Method music is a vibrating time which embodies method itself, prohibiting expression and tempo. However, real vibrations which vary eros will sometimes be exchanged scrupulously for other events.

These method arts, on the one hand, return to the tradition which each form depends on, and on the other hand, sing in chorus a single principle in the same age. We, methodicists, doubt liberty and equality which have produced license and indolence in arts and sciences, and reinstate logics as ethics.

Supplement 1: Shinohara Motoaki has been calling his own compositions method poems since about ten years ago.

While respecting his activities, we use the words with a broad reinterpretation.

Supplement 2: Those in favor of this manifesto can forward it to acquaintances on your own responsibility, adding "In favor, Name, (profession)" at the end. Those partially in favor and those not in favor can also do in the same way. Or, you can of course forward it without adding your name.

January 1, 2000

Drafter: Nakazawa Hideki (artist)

Draft observer: Matsui Shigeru (poet)

Draft observer: Adachi Tomomi (musician)

曾我部清典 SOKABE Kiyonori トランペット
<http://www.jade.dti.ne.jp/~ebakos/>
 愛媛県生まれ。東京藝術大学卒業。現代音楽のスペシャリストとして内外の新作の初演に携わる一方、上野の森プラスのコンサーマスターとして古典からポップスまで広いレパートリーを持つ。ピストンとスライドを併せ持つトランペット（ゼフェロス）を独自に開発し、表現領域の更なる拡大にも努めている。CD「今日までそして明日から」「透明な孤独」「トキノコダマ」「トキノコダマ2」をリリース。プラスエクストリームトウキョウ、コンテンポラリーα（アルファ）、双子座三重奏団メンバー。

西陽子 NISHI Yoko 十三絃箏
<http://www.nishi-yoko.com/>
 和歌山県出身。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。沢井忠夫・沢井一恵の両氏に師事。平成5年度文化庁芸術研修員。1993年東京にてソロデビューリサイタル開催。その後、国内はもとよりアジア、欧米の各地で演奏活動を行う。2001年より西陽子リサイタルシリーズ「face」をスタートさせる。これまでに「箏組曲 植物文様」「ファンタスマ」2枚のソロアルバムをリリース。根源的な視点から箏を見つめ、自由な発想と感性でさまざまな活動を展開している。

足立智美 ADACHI Tomomi プロデューサー／声
<http://www.adachitomomi.com>
 パフォーマー／作曲家。ヴォイス、各種センサー、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏、音響詩、舞台音楽など幅広い領域で活動している。またインスタレーション作家、映像作家としてもキャリアがあり、非音楽家とのワークショップによる大規模なアンサンブルのプロジェクトも進めている。世界各地のオルタナティブ・スペースの他、パリ・ボンビドゥーセンターやアムステルダム・STEIMなどで公演している。CDに足立智美『ときめきのゆいぶつろ

ん』(naya records)、足立智美ロイヤル合唱団『Yo』(Tzadik)、『記号説／ろ・む』(水牛)などがある。

さかいいいしう SAKAI Reisui 声
<http://www.reisui.info/>
 石川県生まれ。武蔵野音楽大学にて声楽を佐伯真弥子氏に師事。三輪眞弘のモノローグオペラ『新しい時代』(東京、京都)で主演、透明感のあるソプラノヴォイスと一線独特の存在感で注目を集める。松澤宥「白鳥の歌をきけよ」(豊田市美術館)、銅金裕司『ヴォイスプラントロンライブ』(大阪CASO)、幸村真佐男「天地人：色即是空」上演(名古屋能楽堂世界ミーム博覧会)など様々なアーティストと共演。2004年よりテルミン奏者トリオ音るる『ここにやさしいうたのよる』に参加。「方法マシン」メンバー。2006年、詩人の松井茂とPreAvaを結成。

鈴木悦久 SUZUKI Yoshihisa マリンバ／声
<http://www.jamas.ac.jp/~yoshs02/>
 1975年横浜生まれ。昭和音楽大学打楽器専攻卒業。LAMASメディア表現科修了。打楽器を小島光氏に、作曲を三輪眞弘氏に師事。現代音楽や中国古楽器の演奏者として活動している。アルゴリズムミック演奏家集団“team SZK”を組織し、解釈する身体をコンセプトにコンサート活動を、また「環・カルテット」(京都ビエンナーレ2003、神奈川国際芸術フェスティバル)等作曲家としても活動している。ARS Electronica 2006 Honorary Mention (Digital Music) 受賞(mimizu)。

池田拓実 IKEDA Takmi 声
<http://de-dicto.net/ac/>
 1975年横浜生まれ。2001年より、コンテンポラリー・ダンスのための提供を主として、PCを用いた音響制作、作曲、ライブを行うようになる。2003年頃、音響制作ソフト「PureData」の日本語チュートリアルを作成、webに公開。2004年より「方法マシ

ン」となり、舞台に立つ他、演目の調査研究、練習用Max/MSPパッチの作成などを行う。

安野太郎 YASUNO Taro 声
<http://taro.poino.net/>
 1979年生まれ、日本人の父とブラジル人の母との間に生まれる。現在は作曲家として、各地で活動を行っている。2004年から方法マシンメンバー。

高橋悠治 TAKAHASHI Yuji ピアノ
<http://www.suigyuu.com/yuji/>
 1938年東京生まれ。柴田南雄、小倉朝に作曲を学ぶ。1963年から1966年までヨーロッパで暮しヤニス・クセナキスに協力する。その後アメリカに渡り、ピアニストとして活動し、コンピューターを使って作曲する。1978-85年「水牛楽団」を組織してアジアの抵抗歌を演奏。多年コンピュータ演奏と他の音楽家たちとの即興を続け、最近では日本の伝統楽器と声のための作品が多い。平凡社から「高橋悠治／コレクション1970年代」「音の静寂 静寂の音」、福音館から富山妙子との共作CD付絵本「けろけろころろ」が刊行されている。

足立智美ロイヤル合唱団
Adachi Tomomi Royal Chorus 声
 パフォーマー／作曲家の足立智美により、従来の「合唱」の概念をくつがえす『ハモらない合唱団』として1997年に結成。同年の「ミュージック・マジ・フェスティバル」でのデビュー以後、都内のライブハウスを中心にバンクかつアバンギャルドなライブ活動を展開、その活動は広く海外にも衝撃を与えた。現在は活動を休止。CD作品「ぬ nu」(naya records)、『Yo』(Tzadik)で、貴重な音源を聴くことができる。収録時メンバー：足立智美、岩田智夏子、宇波拓、江川理沙、平田裕司、福井知子、福永綾子、古澤健



2006年7月23日、渋谷UPLINK FACTORY

中ザウヒデキ NAKAZAWA Hideki 作曲／マウス
<http://aloalo.co.jp/nakazawa/>
 美術家。1963年新潟生まれ。千葉大学医学部在学中より受賞、個展開催等。卒業後数回眼科医勤務を経て、1990年、イラストレーターとして独立。初期のコンピュータ・グラフィックスにポップ感覚を導入し「バカCG」と呼ばれた。1997年、美術家に転進し、文字や記号を使う論理的な作風を展開。2000年1月1日、詩人、音楽家と「方法主義宣言」。2002-03年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡米。著書「西洋画人列伝」他。特許「三次元グラフィックス編集装置」他。作品は北九州市立美術館ほかに收藏され、高校の美術の教科書に掲載されている。

作曲 中ザワヒデキ
 Composed by Nakazawa Hideki
 プロデュース 足立智美
 Produced by Adachi Tomomi

録音
 柳田亮二 (GOK SOUND) 03-05, 09, 14-16, 21-22
 足立智美 01-02, 06-08, 10-13, 17-20, 23-32, 29-33
 中ザワヒデキ 34-49

Recording:
 Yanagida Ryoji (GOK SOUND) 03-05, 09, 14-16, 21-22
 Adachi Tomomi 01-02, 06-08, 10-13, 17-20, 23-32, 29-33
 Nakazawa Hideki 34-49

マスタリング 足立智美
 Mastering: Adachi Tomomi
 デザイン 中ザワヒデキ
 Design: Nakazawa Hideki
 制作 福永綾子 (ナヤ・コレクティブ)
 Management: Fukunaga Ayako (naya collective Ltd.)

naya records 2006
 naya-0003

©Nakazawa Hideki 1994-2006
 ©naya collective Ltd. 2006



naya records (naya collective Ltd.)
 8-22-5-205 Shakujidai, Nerima-ku, Tokyo, 177-0045 Japan
 nayac@mc.point.ne.jp
<http://www.purple.dti.ne.jp/naya/>



naya-0001
 ADACHI TOMOMI
 sparkling
 materialism



naya-0002
 ADACHI TOMOMI
 ROYAL CHORUS
 nu